

テスト設計コンテスト U-30 クラス – アピールシート

チーム ID	S260619001	チーム名	Teston
--------	------------	------	--------

チームの紹介

この項目ではチームやメンバーの紹介、チーム全体の基本コンセプトを記述します。

チーム紹介

本チームは、セイコーエプソン株式会社においてソフトウェアテストの実務経験を 3～5 年積んできた若手メンバーで構成されています。これまで主にテスト詳細設計およびテスト実装フェーズを中心に経験を重ねており、現場での実践を通じてスキルを磨いてきました。

本コンテストでは新たに「テスト要求分析」や「テストアーキテクチャ設計」にも挑戦し、より上流から品質をつくり込む力を高めていきます。

全体のコンセプト

本チームは、テスト設計スキルの向上を目的として、これまで自らの業務では用いてこなかった新しいテスト設計技法にも積極的にチャレンジします。

チーム名「Teston」は、「Test」+「EPSON」+「on」を組み合わせた造語であり、セイコーエプソンのソフトウェアテストエンジニアとして、“品質を守るためにテストを実行し続ける（Test on）”という意志を込めています。

本コンテストを通じて、技術の幅を広げるとともに、実践力をさらに高めていくことを目指しています。

チームのテスト設計の強み・アピールポイント

本チームは、メンバーが様々な専門性を持ち寄ることで、実効性の高いテスト設計を実現しています。特に、以下の観点を重視し、品質向上に直結するテスト設計を行ってきました。

- お客様視点に立ったテスト設計
 - 実利用シーンを踏まえたシナリオで、実際の使用状況に近い品質確認
- 効率的かつ漏れの少ない設計
 - 重要度・優先度を見極め、無駄のない効果的なテスト設計
- 最新技術を活用した設計
 - 生成 AI など新技術を取り入れ、スピードと精度を兼ね備えた設計を実現

これらの視点を組み合わせることで、“お客様にとって価値のある品質”を確実に届けられるテスト設計を実現し、開発現場の品質向上に継続的に貢献していきます。

※ 全体でA 4 縦 4 ページに収まるように記述してください。

チームの戦略・方針

この項目では、チームの作業の進め方や成果物の特徴を、設問に従って記述します。他文書（審査対象の成果物など）への参照で記述しても構いません。

プロセスの説明

チームのテスト設計のプロセス（テスト要求分析・テスト詳細設計といったアクティビティと、テストケースといった成果物の関連性）の全体像を、モデル（PFD やアクティビティ図など）や文章で示してください

テスト設計のプロセスの全体像を以下の資料に示す。

「Teston_成果物 0_001_PFD.pdf」

テストベースからテストケースやテスト手順までのトレーサビリティをどのように確保しているか説明してください

テストベースから洗い出した各機能を ACC マトリックスの Components に示している。その Components に対するテスト観点は ACC マトリックスの Attributes に示している。テストケースには前述の Components と Attributes を記載しており、その 2 点を参照することで、テストケースとテストベースのトレーサビリティを確保している。

イメージを以下に示す。



また、各仕様書に ID を付与することで、要求仕様の追加や変更時に関連個所を抽出でき、トレーサビリティを確保している。

※ 全体でA 4 縦 4 ページに収まるように記述してください。

テストの構造の説明

採用したテストアーキテクチャが一般的なものより優れているポイントを記述してください

全体の戦略としてリスクベースドテストを採用し、リスクが大きい機能、観点を優先的にテスト実施するようにした。それにより、ユーザーへの影響が大きい不具合を早期に発見できることと、テスト繰り返し実施時にリスクの大きさをテスト工数削減の判断指標とすることでアジリティを確保することを可能にした。

テストベースに対する網羅性の確保（目的を満たすようにテストベースを網羅する）で、どのような工夫をしたか記述してください

テスト設計手法として ACC モデルを採用しており、網羅性を確保するため Attributes と Components の決定を工夫した。

Attributes の決定にあたり、単なるブレインストーミングでは見落としや偏りが生じやすいと判断し、網羅性を確保するため、ISO/IEC 25010 の品質特性を参考に Warikan アプリに合った品質特性を決定した。

Components の決定にあたり、ユーザーが実際に操作する個々の UI 部品に対して検査観点を紐づけることが最も有効であると判断し、テストベースから Warikan アプリの「UI 要素」を洗い出し、それを Components とした。

テストベースに対するピンポイント性の確保（無駄なテストを作らない）で、どのような工夫をしたか記述してください

ピンポイント性を確保するため、ACC モデルの Capabilities の決定を工夫した。Capabilities の決定にあたり、Attributes（品質特性）と Components（UI 要素）を軸とした 2 次元マトリクスを作成した。このマトリクスの各交差セルに対して、一つずつ必要性を判断してテスト対象の Capabilities を決定した。このプロセスにより、不要な組み合わせへの過剰な注力を避け、品質を担保しつつ無駄なテストを作らないことを可能にした。

※ 全体でA4縦4ページに収まるように記述してください。

活用した技法や手法の説明

以下のテスト設計技法のうち、今回使用したものを選択してください（記述内容のうち、使用した技法を残し、使用していないものを削除してください。各定義はJSTQBに従います）

同値分割法、境界値分析、デシジョンテーブル、状態遷移テスト、ペアワイズテスト、ユースケーステスト、ユーザストーリーテスト

テスト設計についての既存の方法論（HAYST 法、VSTeP、ゆもつよメソッドなど）や体系（ISO29119、STEP など）で、今回使用したものがあれば記述してください

リスクベースドテスト、ACC モデル、ISO/IEC 25010